

本科生徒授業料

國語科生徒授業料

區役所修繕費

料旅費及廳中諸費

樂兒費

(以下次號)

木植裁スル等ハ

治六年一月ヨリ本

入質ニ取リ公証ヲ

村戶長役場ニ申出

知事芳川顯正

文地方稅ノ下ニ及

東京府廳

務卿山田顯義

裁 神佛各管長

方可見合旨十二年

儀尤試補申付ノ儀

不トノ條項ヲ詳

此旨相違候事

務卿山田顯義

書記

取扱ノ事 豫備軍

事務取扱ノ事 刑法治罪法及懲罰令ニ係ル事務取扱ノ事
恩赦并ニ恩減ノ事務取扱ノ事 憲兵ノ職務ニ係ル警保
ノ事務取扱ノ事 陸軍法術ノ裁判ニ係ル事務取扱ノ事
陸軍法術ノ職員ニ關スル事務并ニ各編取調ノ事 裁判ニ
係ル事務取扱ノ事 軍人軍屬ノ行刑ヲ部類分ニシテ徒
刑場獄内ノ人員調及未決囚ノ人員調ノ事 戰時俘虜ノ取
扱并ニ經理ノ事 靖國神社及遊就館ニ係ル事務取扱ノ事
陸軍會葬并ニ埋葬ニ係ル事務取扱ノ事 遺失物并ニ紛
失品ニ係ル事務取扱ノ事
武學課
課長參謀少佐 一人 課僚 書記

一士官學校戶山學校教導團諸生徒并ニ校團人員教授會計
上ニ係ル事務取扱ノ事 陸軍大學校ニ係ル事務取扱ノ事
陸軍學校ニ係ル事務取扱ノ事 軍隊ノ諸儀式及敬禮ニ
係ル事務取扱ノ事(會葬式ハ此限コラス) 軍人服制ニ
係ル事務取扱ノ事 海外派遣ノ留學生ニ係ル事務并ニ經
費取扱ノ事 野營演習行軍演習并ニ軍隊勤務及學術ニ係
ル事務取扱ノ事 要塞衛戍ニ係ル事務取扱ノ事 軍醫馬
醫部ノ生徒并ニ砲兵諸工生徒諸學生徒等ノ條規及教則調
査ノ事 屯田兵ニ係ル事務取扱并ニ名簿取調ノ事 佛英
獨等各國ノ書籍ヲ翻譯シ并ニ往後書籍ノ淨書草案原文譯
文ノ事務取扱ノ事 佛語英語獨語等其通辨ニ從事スヘキ
事 雇外國教師ニ係ル事務取扱ノ事 省中備付ノ洋書原
書譯書主管ノ事 (以下次號)

○明治十六年全國傳染病患者週報(自一月廿八日至二月
三日)第五回
病名 患者 痊愈患者死亡
虎列刺 無 六九
腸室扶私 一九一 七四
赤痢 無 一
寶布埜里亞 四一 二七
發疹室扶私 三 無
痘瘡 三 無
合計 二三八 一七一

虎列刺死亡六十九人ハ前々肩瀾ノ數ニ係ル
腸室扶私患者最モ多キハ山口縣ニシテ一月七日ヨリ全廿日
ニ至ル二週間三十八人内二十九人ハ監獄囚徒ニ係ル
明治十六年二月六日 內務省衛生局

叙任賞勳

○二月廿日分
特旨ヲ以テ位一級被進候事 正七位 平山 省齋
叙從六位 正七位 平山 省齋
○二月六日分
陸軍砲兵大尉正七位勳六等 今津 孝則
陸軍一等軍醫正 全 勳五等 柴田 正孝
任陸軍砲兵少佐 陸軍二等軍醫正從六位勳四等 小山内 建
任陸軍一等軍醫正 全 勳五等 柴田 正孝
○二月十日分
任海軍少佐 海軍大尉 正七位勳六等 角田 秀松
陸軍歩兵大尉正七位勳五等 隱岐 重節
全 全 豐東 貞負
任陸軍歩兵少佐 全 全 豐東 貞負
○二月三日分
久能 司 山本 篤治 藤井 葵三 高木常之助
宇野新次郎 林 榮次郎 鶴岡 末吉 鈴木 信
島崎 正藏 花島半一郎 豐島 新作 江藤 鋪
本多 道純 香宗我部順 小原 傳 大友 毅
阿部貞次郎 大友誠三郎 松橋 金吾 廣瀬 信義
梅村金十郎 三盛 精之 中村 豊三 堀口誠三郎
下山 繁八 間宮 公雄 菱田次郎
右叙正八位

時事新報

國體ノ志趣

輔浦外史

國體ノ思想トハ大概テ人種、言語、宗教、歴史等ノ相同
カヨリ起ル所ノモノコトナリ即チ一族ノ人民カ生誕ノ土地
ヲ共ニシテ所生ノ祖先ヲ共ニシテ信仰ノ宗旨ヲ共ニシテ榮辱ノ
口碑ヲ共ニシテ一國ノ一國タル所以ヲ表スルノ氣風ナリ
譬ヘハ日本人ノ外國人ニ對シテ我コソハ日本國人ナリト
ノ色ヲ示シ英國人ノ他ニ向テ英國人トシテノ趣ヲ表ス
ルハ皆是レ各自其國體ノ思想アルガ故ナリ去レハ此思想
ハニケ國以上相交際シテ始メテ起ル所ノ者コトナリ孤立獨
歩ノ人民ニハ未ダ曾テ之アルコトナク假令ヒ之アルモ尙甚
ダ微弱カラザレテ得ス乃チ外交ト國體ノ思想トハ正シク
相阿立シテ離ルベカラザレモノナリト知ルヘシ然レハ國
已ニ外交ヲ開キタル上ハ直チニ彼此ノ間ニ貿易ノ道ヲ開
キ交通ノ便ヲ盛ニシテ隨テ各國互ニ公使ヲ派遣スルニ至ル
チ以テ外交ノ道ハ自ラ進歩シテ漸ク親密チ加フ可キト雖
モ獨リ彼國體ノ思想ニ至テハ外寇外侮等豫期スベカラザ
ル原因ノアルコトアラザレバ決シテ發達スルチ得ザルガ故
ニ若シ己ニ外交ヲ開キナガテ其人民尙未ダ國體ノ思想ニ
乏シキノ國アレバ人爲ノ手段チ以テ之ヲ養成セシムルコ
ト蓋シ志士處世ノ義務ト云ハザルチ得ザルナリ
我國ノ始テ世界文明ノ競場ニ駈出タルハ實ニ近年ノ事ニ
シテ支那荷蘭等ノ數國ヲ除テハ全ク海外ノ交際無カリシ
者ト云フベシ去レハ戰チナスモ和睦チ結ブモ唯日本人ト
日本人トノ關係ニシテ曾テ日本全面ノ考チ以テ外國ニ對
スルノ場合ナク隨テ我國民ニハ國體ノ思想乏シカリシモ
誠ニ怪ムニ足ラス又實ニ其用ナカリシナリ然レハ爾來漸
ク各國ト交通チ開キ往復掛引日一日ヨリ混雜チ加ヘ又昔
日ノ如ク遊々閑々トシテ日本國內ノ事務ノミニ籠蹏スル
チ得ザレバ日ヨリ至リテハ最早ヤ我國民ハ大ニ國體ノ思
想ヲ養成シテ外國チ相手取ルノ必摺セザルベカラザレ
ノ要用ヲ感ズルニ至レリ蓋シ外交以來我國内コソ已ニ封
建ノ舊政チ仆シ四民同等ノ位地チ得テ互ニ權利チ重ニス
ルノ昭代トハナリシレハ宇内萬國ハ正ニ是レ依然タルニ
大封建國ニシテ腕力ノ實ハ常ニ道徳ノ虛チ制シ大、小チ
犯カシ強、弱チ凌キ吞滅掠奪是極ナル所ノ禽獸世界ナリ
而シテ其小弱國ノ常ニ大強國ノ爲メニ國權チ縮少セラレ
同等ノ位地チ得ザルコト恰ガラ當時我國ニ於テ百姓町人ノ
武士ニ抑壓セラレタルニ異ナラス我國ノ如キ小且寡チ以
テ斯カル恐ロシキ世ノ中ニ立チ荷モ寸分ノ國權チ堅キヤ
ラントスルコトハ我國人民一般常ニ日本合一ノ考チ以テ世
々タル紛争ニ關着セズ能ク一我結合ノ實チ失ハザラシ
ニ注意セザルベカラズ國體カチザレハ蒙テ東洋ニ陸蹏スル
所ノ廣積弱國中成ハ英傑チ得テ吾チ救スルノ奇蹟チ呈

スルニ至ルベキヤモ計リ知ルベカラズ深ク鑑テ尙足
ラザルモノト云フベシ

一昨年ヨリ昨年ニ掛ケ如何ナル世ノ風潮ナルカ政黨
ナルモノ、起リテヨリ以來心ノ遷リ易キハ人類ノ常

職忽チ國中ノ流行ト爲リ湯飯餅地到ル處政治ヲ談シ
時事ヲ語リ僧父野人亦主義ノ異同ヲ論スルニ至レリ

畢竟大勢ノ然ラレムル所ニテ其局處ノ得失ハ之ヲ
議スルモ無益ナレバ我輩ハ今日ニ追テ之ヲ論スルヲ

好マズ我輩ノ論旨ハ蓋シ其前ニ在テ或ハ世人ノ注意
ヲ促カシタルヲモアラン之ヲ促カシテ聽カレサレバ

亦止ムノミ或ハ今日ニ於テモ往々論スル所ノモノア
レハ其論ヤ世人ヲ以テ見テラバ亦今日ノ局處ニ適ス

ルモノニ非ザル可シ聽カレサレバ復テ止ンテ他年ヲ
待タンノミト雖モ唯目下ニ在テ憂フ可キハ彼ノ政黨

ノ沙汰アリシヨリ以來何ガ人心不折合ノ色ヲ呈シ互
ニ猜疑ノ念ヲ抱テ其軋轉ノ極或ハ凶器ニ訴テ人ヲ害

シ已レ亦刑辟ニ陥ルヲ知ラザルノ狂愚者アルニ至レ
リ畢竟我國民カ國ヲ開テ外交ニ從事シナガラ此外交

ノ重キニ平均スヘキ國體ノ思想ヲ思想セザルガ故ニ
往々斯ノ如キ顯相ヲ生スルニ至ルナリ蓋シ英雄豪傑

ハ強膽大度ニシテ喜怒哀色ニ顯ハレズト雖モ小人匹夫
ハ局量狹隘ニシテ派隘縮少ナルガ故ニ事物ニ就テ輕

ロシク感覺テ外部ニ發シ忽チ笑ヒ忽チ怒テ深ク之ヲ
心ニ藏スヲ知ラズト云ヘリ我國人民未ダ必ズシモ小

人匹夫ニ非ラズト雖モ眼界狹隘常ニ日本國內ノ事物
ニ注目シテ宇内ノ大勢ヲ知ラズ日本國內ニ小敵アル

ヲ知テ海外万国ニ剛敵ノ存スルヲ知ラザルガ故ニ瑣
々タル小事ニ遇テ或ハ憤恚ノ焰ヲ燃ヤシ時ニ或ハ

暴虎馮河ノ勇ヲ顯ハスヲアルニ至ルナリ若夫レ日本
全体ノ思想ヲ以テ廣ク宇内ノ實勢ヲ觀察シ我國ト万

國トノ關係如何ナリ顧慮スルハ區々タル日本國內ニ
於テ兎角ノ紛擾ヲ起シ血氣ノ勢ニ任セテ之ニ熱心ス

ルガ如キハ自カラ反省シテ慚愧ニ堪ヘザルモノアル
ナリ但シ政黨國體ニ大切ナリ如何ニ人民、外交ノ思

想ヲ養スレバトテ全ク内國ノ政治ニ眼着セザルガ如
クハ我輩ノ甚ク取ラザル所ナレバ日本ヲ以テ天下ト

シ日本ヲ制スルハ天下ニ王タルナリトノ陋見ヲ以
テ今日ノ世界ヲ渡シテ之ヲスルハ太ダシキ間違ニシテ

實ニ我國ノ實アルニ日本三千六百万人皆是レ兄弟
ニシテ兄弟ヲ勝ツモ兄弟ニ勝テ負クルモ兄弟ニ負

クルトナレバ云ハ、敢テ強クトシテ其間ニ勝敗ヲ爭
フニモ及ハザル可キ事實ニ於テ反對ノ顯相ヲ呈ス

ルトハ既キ入リタル次第ニテアテヤ或ハシム唯庸土
ノ議論ニシテ實際ニ行ハレザル事ナリト云フ人アリ

又或ハ我國人トテ至ク國體ノ思想ヲ有セザルニアラ
ズ彼獲夷論ノ起リシモ我國人ニ日本國全般ノ考アリ
シ証據ニシテ爾來外交ノ開シルト共ニ漸ク發達セン

雜報

トスル者ナリト云フ人アリ我輩亦甚ク能ク之ヲ知ル
知テ而シテ之ヲ唱フル所以ノ者ハ其發達ノ度未ダ我

國ノ外交ト並行セザルモノアルヲ以テナリ國體ノ思
想ヲ養成セシムルニ豈夫レ志士ノ急務ナラザランヤ

○故華頂宮御送葬 前號ニ記せし如く昨日午前九時
三十分第三豐橋四聲にて三田臺町一丁目ある同邸を

御出棺後御列の前衛として眞先ニ巡查長警視方面
監督合て五騎次ニ東京鐵道步兵聯隊指揮官野津少將

及び參謀士官各騎馬次に同騎兵中隊次ニ鐵劔真神十
本紅白旗十旒神饌辛儀吳床雨皮神官二騎次ニ齋主本

居大教正副齋主細川權中教正馬車神官騎馬次ニ錦旗
伶人笙笛篳篥越前神樂十椽鉾六本造花六其引續て御

柩輿丁四十人前後家從六人御香家從二人吳床雨皮喪
主南部利恭君馬車有栖川小松伏見北白川山階梨本の

六宮徳大寺宮内卿香川全少輔堤兒玉足立櫻井の同書
記官何れも馬車次に各宮御附家從各騎馬又次ニ鎮臺

歩兵工兵砲兵輜重兵ふて其外列外奉送ハ川村井上松
方大山佐々木福岡の諸參議吉田外務大輔土方内務大

輔真木海軍少輔芳川東京府知事山縣視總監野村驛
遞總監以下勅奏官數十名ありしが途中の御列ハ十四

五丁の間、絡繹せり扱島岡へ御着後より午後
一時卅分分て御陵墓地へ設けられえ御仮屋ニ御棺を

据へさせられ神官は更るく供御を靈前に奉げられ
たり其際伶人の樂を奏し本居祭主ハ進んで祭文を奉

讀しぬ畢て勅使藤波侍從御代拜次に兩皇后宮並皇
子明宮皇女滋宮增宮の御代拜あり續て有栖川宮を始

めよりらせ皇族參議勅任官宮の御外戚宮内奏任官以
下判任官何れも順序を追ふて禮拜全く畢りぬれを全

所より各親王宮内勅奏任官御外戚比の列よて伶人
樂を奏えあがら御墓地へ到らせられ尙禮拜ありて午

后四時陸内へ御納棺是時砲兵砲を發ちて全く葬儀
を畢られし同日御送葬の方々及び供奉の一同へは豊

島町の仮休息所を設て折詰辨當を賜りしとぞ又本
日之御母郁子の君を始め御外戚並同宮の家扶從は

全所へ參拜あり明日よりは日々家扶從三名づゝ參拜
せらるゝと定められぬるやに承る又昨日御送葬
の御道筋は過日來の大雪及び一昨日の降雨よて道路
恐しく殊に小石川邊方ハ一層泥濘履を没し歩從人の
困難ハヤコンと察せられぬ右よて御着柩も案外よ遇
ふべかりと又 聖上兩皇后宮よは御母君の御墓、如

何べかりと察せ玉ひて別段勅使
らせられたる由

○奉幣使 孝明天皇御例祭奉幣
山の御陵及び歸路伊勢神宮へ

し小西三等常典よは明廿二日
報ありたる由

○西郷農商務卿 西郷農商務卿
三週間の賜暇を得て昨二十日

かれしよし然れば前號ニ記載
せらるゝあらんか

○谷陸軍中將 谷陸軍中將よは
として赴むられしが明後日歸

しといふ

○宴會 海軍少輔真木長義君
られし祝宴として一昨日築地

名を招き盛んある饗應をせよ

○西田久孚君 同君は是迄赤
昨日鐵道局の運輸課長を命せ

○陸軍治罪法 近々發布さる
過日より既に印刷し付せられ

合さるべしといふ又同治罪法
略を聞くに其重罪の主刑と爲

刑有期徒刑、無期流刑、有期
禁獄、輕禁獄等ありてまた輕

重禁錮、輕禁錮、又附加刑と爲
官、停止公權、禁治產、監視沒

○宣告又改正 陸軍々法會議
といひし頃方軍人として罪を

宣告せ末文へ奏任官あれば何
あれバ何々申付ると記し來人

犯罪人を宣告するお斯く區別
ハ何々の刑に處すと書する事

○軍艦新造 今度海軍省よ
見込ふて此程神戸ヤルビ

日隈等を照會せられたるよ、
を摸擬せらるゝよしお聞け

○沿海運航 前號へ昨廿日
霞の都合よ依り今二三日出
艦ハ海軍機關生徒十一名と

よ進航し然して琉球、長崎、
週航さるゝよしおて航海の
込ありと聞く

○水雷局 海軍省中へ此程
は兵器局次よ列せられ